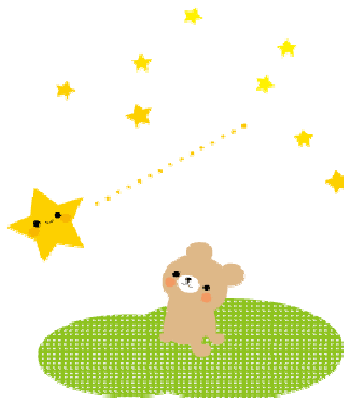


研究主任（道徳教育推進教師）



あと2日で長い夏休みも終わります。40日間、しっかりと休養され、心も体も充電されたと思います。さあ、2学期です。子どもたちにいろいろな面で力をつけるよう、刺激しあって頑張りましょう。今回は、明治図書の道徳教育8月号から、資料を選びました。参考にして頂ければありがたいです。

「人とのかわりこそが人を育てる」

他者理解を通して道徳授業を深める着眼点 から

以下のようなことを道徳の授業の基盤として、日頃から行っていることが大切です。

- ① お互いの人格や命を相互にいたわり合う姿が見られるか？
- ② 一人一人の自覚や納得の中で自他の関係が成立しているか？
- ③ みんなが励まし合い、競い合い、そして心が満ちているか？
- ④ 個々が真剣に学び、成長が実感できる。
- ⑤ 個性を伸ばし、強調し合う中で快適な生活が送れているか？
- ⑥ 悩みや問題をもつ子が受け入れられているか？

教師の姿勢

学級経営は、『じっくり、ゆっくり、たっぷり』と目をかけ、手をかけ、声をかけ、心を寄せていく姿勢が大切です。

授業改善

他者理解を深める話し合いの工夫

授業改善の着眼点や改善点として・・・

- ① 教師対児童という関係から、児童相互の向き合い方を考えて行く。
- ② 互いに励まし合い、共に学ぶ感謝の言葉を教えていく。
- ③ 「なぜ」「どうして」「どんな理由から」という問いで考え方を確かめながら授業を進める。
- ④ 発言や活動の失敗などのミスを大いに認めていく。
- ⑤ 教師の自己開示などを通して開かれた心、広い心を育てていく。
- ⑥ 自己の活動を振り返る自己評価能力を高めていく。

言語力の育成

言語力を育成し、コミュニケーションを深める。

これからの道徳授業を構築する

主人公の気持ちを問うだけに終わらない

「小学校学習指導要領解説・道徳編」（文部科学省平成20年p85）

読み物資料を学習指導で効果的に生かすには、

- ① 登場人物への共感を中心とした展開にするだけでなく、
- ② 資料に対する感動を大事にする展開にしたり、
- ③ 迷いや葛藤を大切にしたりした展開、
- ④ 知見や気づきを得ることを重視した展開、
- ⑤ 批判的な見方を含めた展開にしたりするなど、資料の特徴を生かした指導の手順や学習過程の工夫が求められる。

「自分だったらどうするか」という問いに批判的な声も聞くが、子どもが等身大の自分を語るにはよい手がかりとなる。

補助発問

効果的な補助発問とは

補助シートを作成し、臨む授業をしてみてもどうか。

指導案にあるだけの発問だけでなく、出るであろう児童の意見に対して、どう切り返しをしていくのか、発問と発問のつながりをどのように言うのか、普段指導案に書いていない部分を書く事で、児童のどんな発言にも対応できる安心感を持って授業に臨める。

ながながと書きましたが、番号のあるものについては、ご自分でチェックをされるだけでも、今後の自分の授業が変わってくるかもしれません。是非やってみて下さいね。



もっとこの内容について知りたい！と思われた方は、道徳教育8月号をご覧ください。参考になることが、多く書かれています。